いわむろのみらい新聞

２面
アートサイトＰＲ発表会
３面
芸妓さん取材
４面
観光複合施設 中間発表へ
８面
連載　ムサビの風景

作品名「にいがたピースピース！」みんなで「はい、チーズ！」

収穫祭でのふれあい

『山々の自然を感じられる夏井での作業は、寒さもありましたが気持ちの良いものでした。特に朝の霧や夕日の眺めは壮大でした。

あまり触れる機会のなかった藁を使った作品づくりに最初は手間取っていました。しかし様子を見に来て下さった地元の方々が、見兼ねてお手伝いしてくださったり、藁の上手な扱い方を教えてくださり、なんとか思い描いていたものを創ることが出来ました。そんな地元の方々との交流が温かく楽しく、感謝の気持ちでいっぱいです。』（文・角田未希）

田んぼにお茶目な藁アート　にいがた収穫祭in夏井

11月4日より行われたにいがた収穫祭では、夏井の田んぼを舞台にムサビの学生が藁による作品を披露しました。制作には前回のアートサイトに参加した三年生を中心に10名が岩室に滞在し、連日夜間まで作業が続いた疲れた身体を温泉で癒しながら、4つの巨大な作品を作り上げました。

第1回講演会開催！『地域活性化のポイント』

11月14日、武蔵野美術大学で、いわむろのみらい創生プロジェクトの第1回講演会が開かれました。今回は地域経営やコミュニケーション戦略に詳しい瓦井秀和教授をお招きし、地域活性化のポイントをテーマにお話をしていただきました。瓦井教授のお話ではまちづくりの成果が出始めるのは10年先で、本当にかたちになるのは１００年も先だそうです。より良いまちにするには時間をかけ、土台をしっかり作る必要があるということです。「10年後を意識しなさい。自分達がどこまで頑張れば、10年後その目標が達成できるのか、それを常に考えていけばええんや」という瓦井教授の言葉が印象的でした。複合施設チームを始め、アートサイトなど各グループも動き出しています。講演会にヒントを得て、それぞれの取り組みが進化していくと思います（文・川田誠）

パワフルな関西弁で語られる地域活性化の秘訣

［瓦井秀和　教授略歴］
1947年、大阪市生まれ、同志社大学工学部卒業。現在、城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科／メディア学部メディア情報学科教授、本学芸術文化学科非常勤講師ほか。著書多数。

特集：ムサビ学生が行く
秋の岩室体験レポート

11月11日、12日とアートサイトPRチームの発表会と建築学科の視察のため、岩室へ向かいました。今回の視察で一番の収穫は岩室の方々の思いを直接感じることが出来たことだと思います。このプロジェクトは、岩室の方々と武蔵野美術大学が共に創り上げていくもの。発表会では岩室の方々から様々な意見が出され、発表する学生には熱意が感じられました。共に創る意識を実感として強く感じました。率直な意見を沢山いただけて嬉しかったです。直接話しあう中でこそ伝わってくるものが沢山あることに気づき、お互いの考えをすり合わせていく大切さを再認識しました。今回の滞在も有意義で密度が濃い時間でした。建築学科、PRチーム共に大きな収穫を得たことでしょう。

両日とも雨や雹が降るなど悪天候でしたが、帰りのバスからは虹を見ることが出来ました。その虹は、根元が岩室から出ている様に見え、これは岩室の明るい未来を象徴しているのではと眺めていました。（文・水本真梨乃）

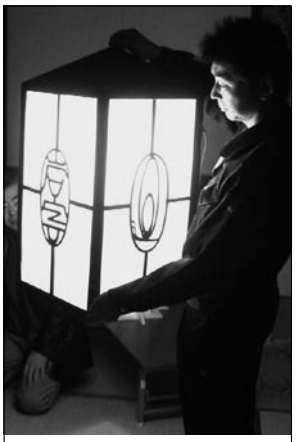
新しいものが生まれる予感

アートサイトＰＲ班
テーマは「美流」

11月12日、岩室伝承館にていわむろのみらい研究会の方々を招き、アートサイト岩室温泉２００７のテーマとチラシ案の発表会が行われました。２００７年度のアートサイトPR班が提示したテーマは『美流（びりゅう）』という言葉。PR班はこの新しい言葉に「美しい流れ」という意味を込めました。発表会の中で特に話が盛り上がったのは、やはり５つのチラシ案について。PR班のメンバーはそれぞれに多様なチラシ案を提示しましたが、どの案も意外に印象が薄かったせいか、最初の反応は厳しいものでした。しかし可能性を見捨てずにPR班と研究会の方々の討論は続き、結果として、チラシに対するアドバイスや、アートサイトの意味合いについても非常に積極的な意見を頂く事が出来ました。「是非もっと思いきってやってください！」との言葉に、PR班は心を新たにした様子でした。『美流』のチラシが出来上がるのは12月上旬。どんなチラシになるのかとても楽しみですね！（文・小林つぶら）

岩室の夜を垣間見る

11月11日の夜、旅館綿屋にて岩室の芸妓さんにインタビューをする機会を頂きました。質問にお答え頂いたのは岩室芸妓置屋組合会長の小梅さん、同副会長のてつ子さん、並びに旅館綿屋のご主人石崎さんです。一見艶っぽく優雅に思える「芸妓」という世界ですが、お答え頂いた方々の熱心で丁寧な話し振りから、芸妓という仕事に対する情熱が伝わってきました。石崎さんの『芸妓さんが居てくれたから今の岩室が成り立っている』という言葉に、宿場町としての歴史を持つ岩室の骨子「夜」を他でもない芸妓さん達が支えてきたのだということが感じられました。また『仕事で辛いと思うことはあるか』の質問に『辛いと思うことはない、これほど張り合いのある仕事はない』と笑顔で答えてくれた芸妓さんのお二方。その言葉から、謙虚で親切な物腰からは到底わからない、芸妓という仕事に対する苛烈なまでのプライドが伺えました。（文・桜井奈穂）



街路灯の発表会が行われました。３月のアートサイト岩室 2007 で点灯式が開かれます。いわむろのみらいを照らす新しい光です。どんな明かりが灯るのか楽しみですね。

弥彦神社にお参りに行きました。「いわむろのみらい」創生プロジェクトが成功しますように。さらに、宝くじに当たりますようにかな？♪よしたや～ よしたや～

綿屋さん。美味しいお料理に貴重な資料のご提供、ありがとうございました。見せていただいた「新越後物語」は岩室の宝ですね。ムサビでも試写会を開く予定です。

公園企画チーム。雹が降るなか視察へ。冷えきった身体を「嵐の湯」で暖めたら、熱っぽかった風邪が治ってしまったそうです。さすが温泉！

プレゼン前日、ドキドキの PR チーム。芸妓さんの巧みな話術に緊張もほぐれました。

観光複合施設チーム

中間発表へ向けていよいよ大詰め！

溢れるような模型の数々。部屋全体に作業の跡が見て取れ、壁にはのどかな風景の写真が貼られ、数人が机を囲み話し合っている。そんな部屋で毎週金曜日、岩室温泉観光複合施設の講評会が行われています。毎回、学生7グループがその週の成果を発表し、3人の先生達が厳しい眼差しで講評していきます。今回は観光複合施設チーム全体の説明を織り交ぜながら、11月10日、17日と2週に渡っての講評風景をお届けします。

制作部屋に貼られた岩室の風景。

これまでの経緯

9月28日
類似施設調査開始

10月5日
類似施設調査発表。
現地視察に向けて
調査内容検討。

10月13日
調査成果の発表。
基本計画検討。

10月20日
企画、プログラム提案と
ボリュームスタディ。

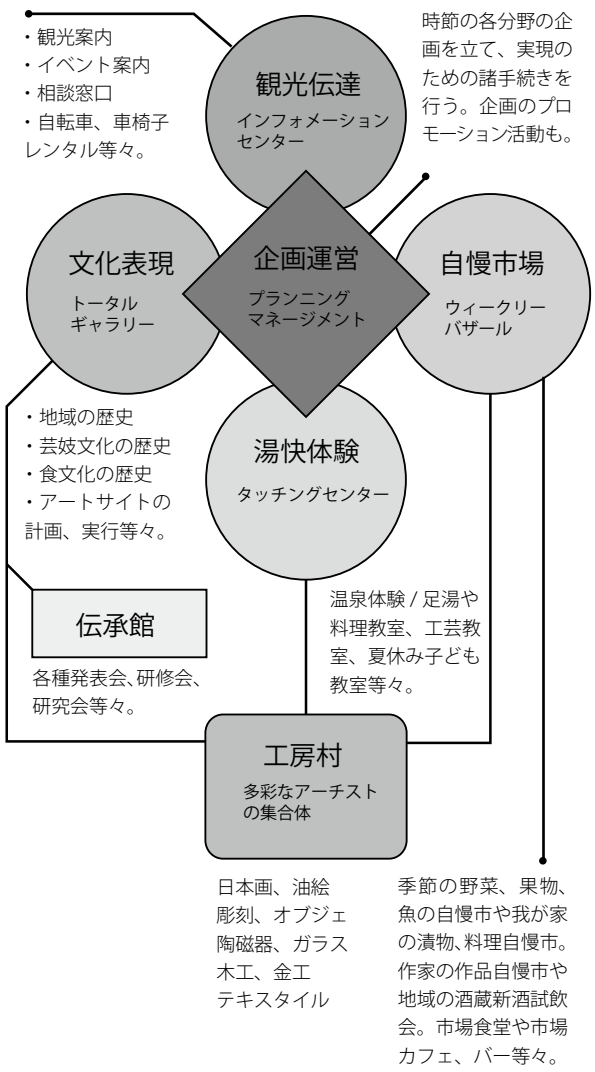
～11月10日
「伝承館」含む
周辺敷地模型制作。

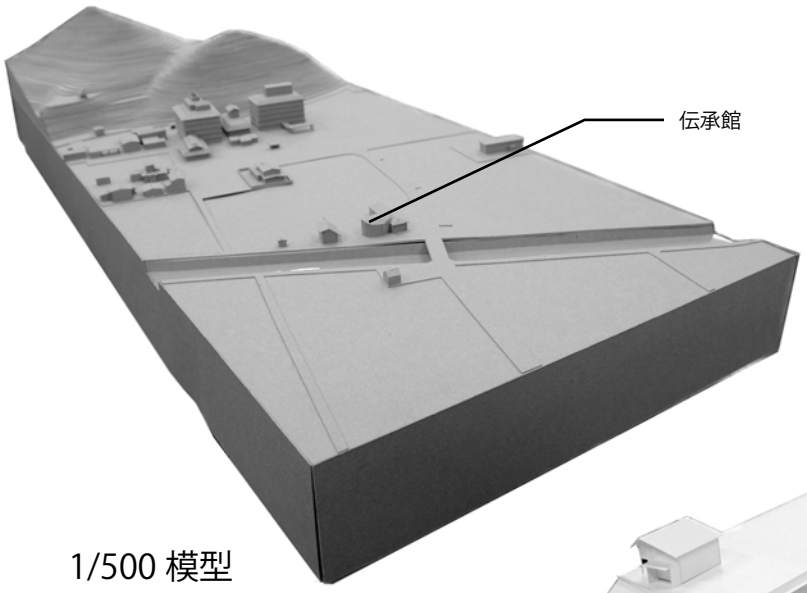
11月10・17日
ボリューム配置と
ゾーニング発表会

11月24日
中間発表会

岩室温泉観光複合施設事業構想案について・・・宮島慎吾教授

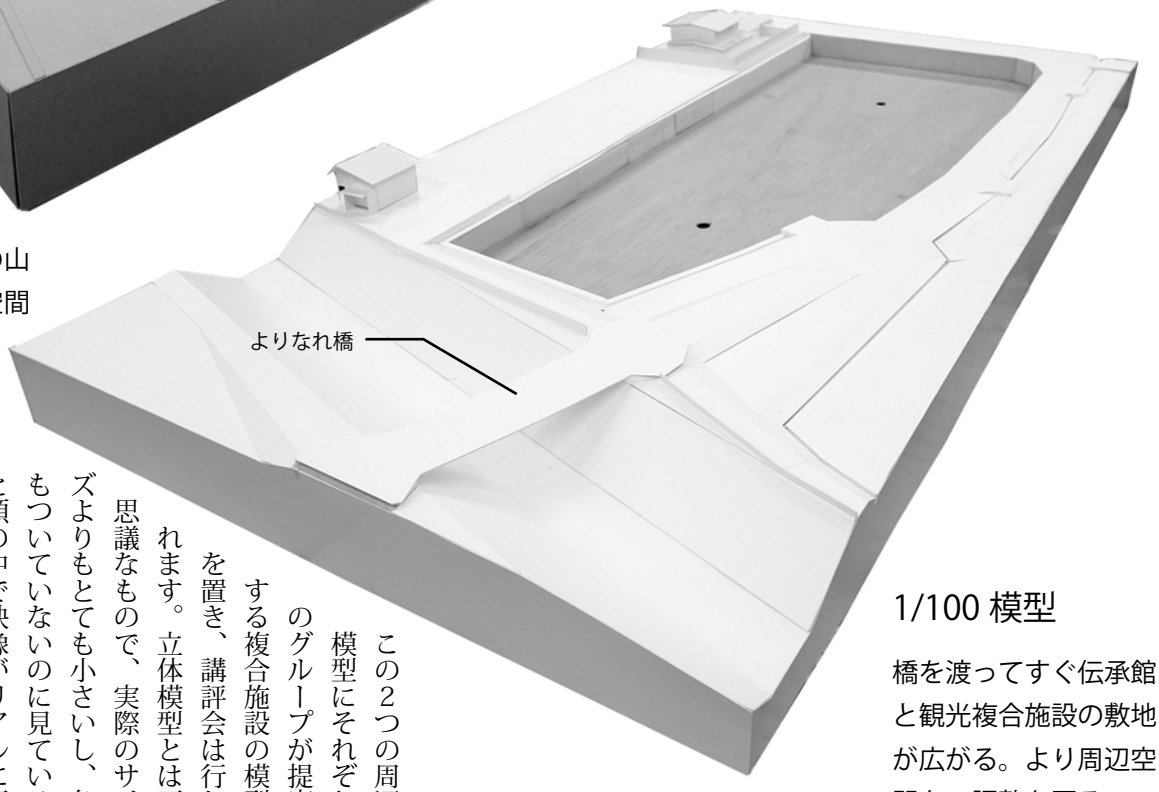
10月31日の岩室未来研究会幹部会との会議において話された内容をチャートにまとめ、11月8日の観光複合施設会議（新潟市都市整備局開発建設部営繕課・像設計事務所・岩室支所・岩室未来研究会・武蔵野美術大学）に提出し、施設のあり方について議論を行った。主旨としては建造物の設計以前に、この施設が有効に利用されるための事業運用の考え方を明解にする必要があり、常に新鮮で、動きのある、生きた使われ方を目指した事業を展開することを念頭においた施設であることが確認された。その内容をまとめたものがこの新チャートである。事業の基本は4つの柱（観光伝達・文化表現・自慢市場・湯快体験）とし、その中心で企画運営が様々な企画事業を展開する重要な役割を担う。又、近隣地域にアーティストや工芸家などが住み着いて作品制作を行う工房村を構築して、この施設のみならず地域全体の長期構想として連動を行っていく。





1/500 模型

川の手前から遠景の山まで望む広範囲な空間との調整を図る。



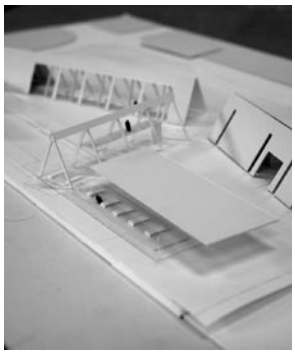
1/100 模型

橋を渡ってすぐ伝承館と観光複合施設の敷地が広がる。より周辺空間との調整を図る。

この2つの周辺模型にそれぞれのグループが提案する複合施設の模型を置き、講評会は行われます。立体模型とは不思議なもので、実際のサイズよりもとても小さいし、色もついていないのに見ていると頭の中で映像がリアルに再現されていきます。向こうは田んぼの風景が広がっていて、またこんなふうに山が見えるんだろうというようにイメージがみえてくるのです。

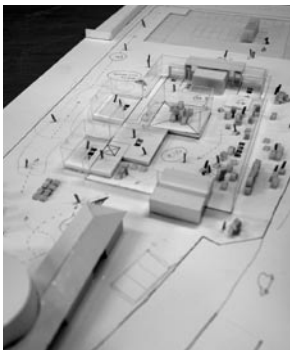
住民と訪れる人
共に笑顔が生まれる場所へ

七つのみらいが生まれようとしています。



「はざかけから』

はざかけにヒントを得た外観。敷地内には畑も作る。



『いわむろ四郎』

車の導線からの入りやすさ、出やすさ。そしてまたサイロからヒントを得た定形ユニットによる多機能な空間演出も考えている。

「住民と旅人の出会い」

立地から人の流れを考えた。流れにそって良寛ギャラリーや体験ワークショップ、山を眺めて入れる足湯など様々なものが用意されている。

11月10日、17日の2週のエスキスにわたり、私たちは200分の1という縮尺でスタディを行ってきました。

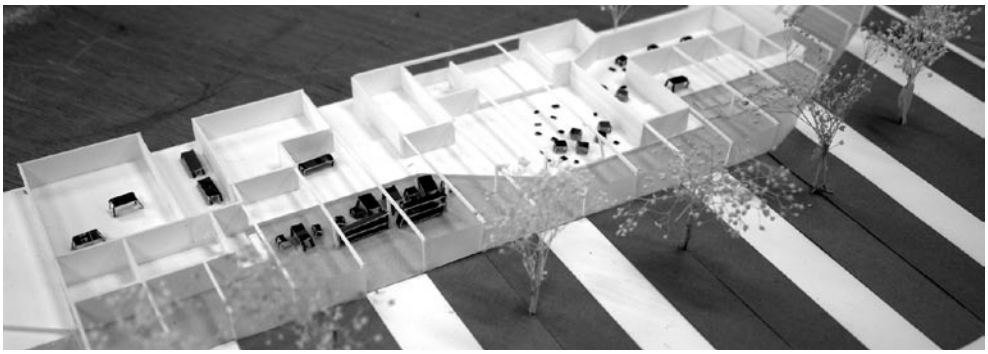
ここでは諸室に用途を当てはめながらのボリューム配置計画やゾーニングのスタディ、また各班が初期に設定したテーマがどのような建築の形体や配置で表現することが可能かということが話し合われてきました。個人個人で考えたことを模型にしてみて、それを班の中で議論する。こういったことの繰り返しで案を発展させていきます。その結果、各班とも徐々にコンセプトが明快になり、だんだんと空間構成にも方向性が見えつつあります。

また次週11月24日の中間発表では学内公開プレゼンテーションを行います。スタディを行う縮尺も100分の1という大きさにスケールアップし、素材や寸法もより具体的に設定しながら内観イメージ等でそれらを表現していくこととなります。

各々がいわむろやこの複合施設の計画に対して考えてき

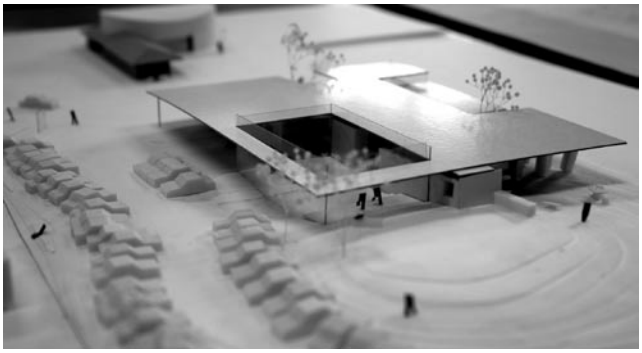
「岩室さんぽ」

どの部屋にいても岩室の景色が目に飛び込んでくる建物。そして、ここからさんぽに出たくなる施設にしたい。



「みんなのいえ」

土間から板の間へ、そして座敷の３層構造になっている。裸足になり奥に座敷に入る感覚が親密さと安らぎを生み出してくれる。



「起伏とともに」

山や景色がみえるように屋根が低くなっている。建物の横に緩やかな起伏があり、ご飯をたべたり、憩いの場となる。

「丘をつくる」

視線や導線を意識したつくりになっている。地元の農産物を使った料理や食事の体験もできる。

た想いをどのような形で表現するか、これからは最終段階に向けて大詰めといった重要な時期であり、同時に表現することの楽しさを感じる時期でもあると思います。そして最終的には建築的な面白さを持ちつつ、岩室の方々の期待に沿えるような案が出てくることを期待したいです。

ティーチングアシスタント　小名秀幸

ムサビの風景

第１回
『いわむろのみらい』
創生プロジェクト
コアグループ

こんにちは！コアグループの高橋です。コアグループとは武蔵野美術大学の学生10人で組織された集まりで、岩室のまちづくりのテーマを決めたり観光複合施設や公園、街路灯、アートサイトPR等、沢山動いている各グループと連絡をとって全体の計画を進めていく調整役をしています。この新聞も私たちが作っています。全員情報誌作りは初めての経験なのでわからないことだらけですが、岩室の方々と誌面を通してつながっていけたらと考えています。

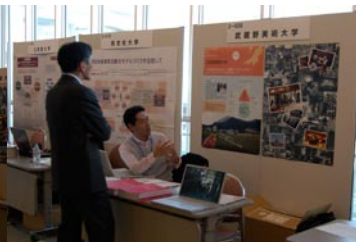
写真は私たちが集まっている会議室です。壁一面岩室で撮ってきた写真と地図が貼られていたり、キーワード案が並べられていたり。岩室甚句のMDもあり、部屋中岩室一色です。窓からは富士山も見えるこの部屋で、日夜岩室について語っています！

この会議室から毎号岩室とムサビ情報満載でお送りしていく「いわむろのみらい新聞」をどうぞよろしくお願いします。（文・高橋里佳）

ポスターセッションへの参加

平成十八年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」のポスターセッションが、十一月十二・十三日の両日、パシフィコ横浜の会議センターにて開催されました。ポスターセッションとは、選定された取組に関する情報発信を行うものです。一同に並んだ各取組のブースでは、担当者より説明を受けることができ、教育関係者による情報交換の場ともなっていました。

全国の大学等が一同に並び、各取組の冊子を配布して PR した。



フォーラム参加者にいわむろのみらい創生プロジェクトを説明する研究支援センター澤野さん。

編集後記

この新聞の編集に携わるようになって毎週新しい発見をする楽しみができました。私にとって建築は未知の世界です。岩室の多くの方にとってもそうではないでしょうか。毎週金曜日の午前中、建築学科に行くと部屋中に模型が置かれています。（先週は大きな模型がいくつも増えていました）それは各グループの描く岩室の未来のようです。人の流れや地形を大きな目で見て、地域の空間をデザインする。今まで、想像もしなかった規模のイメージでした。建築は図面や模型が難しい印象があるかもしれません。しかし岩室がどうなってゆくのか、建築を身近なものとして読んでいただけたらと思います。

また先週は新聞に小さな革命が起こりました。第三号からは他のプロジェクトのニュースも掲載していきます。企画へのご要望などありましたら出来る限り対応しますので、お便りお待ちしています。（文・和田瑛里）

発行
「いわむろのみらい」創生プロジェクト
いわむろのみらい新聞編集部

■プロジェクトホームページ
http://www.musabi.ac.jp/iwamuro/

ⓒ 「いわむろのみらい」創生プロジェクト 2006